



統合設定の管理

この章は、次の項で構成されています。

- [構成管理データベースの統合, 1 ページ](#)
- [計測データのエクスポート, 2 ページ](#)
- [変更レコード, 3 ページ](#)
- [システム ログ, 3 ページ](#)
- [ストレージおよび OVF のアップロード, 5 ページ](#)
- [複数言語のサポート, 5 ページ](#)

構成管理データベースの統合

構成管理データベース (CMDB) は、システムの変更を追跡および管理するために使用されます。CMDB には通常、仮想マシン (VM) 、サービス リクエスト、グループなどのリソースに対する追加、削除、または変更のイベント タイプが表示されます。

CMDB 統合の設定

ステップ 1 メニューバーで、[管理 (Administration)] > [統合 (Integration)] の順に選択します。

ステップ 2 [CMDB統合設定 (CMDB Integration Setup)] タブを選択し、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[FTP サーバにエクスポート (Export to FTP Server)] チェック ボックス	FTP サーバに変更記録をエクスポートするには、このチェック ボックスをオンにします。

名前	説明
[エクスポート形式 (Export Format)] ドロップダウンリスト	エクスポート形式の種類 (CSV または XML) を選択します。
[FTP サーバ (FTP Server)] フィールド	FTP サーバのアドレス。
[FTP ポート (FTP Port)] フィールド	FTP サーバポート番号。
[FTP ユーザ (FTP User)] フィールド	FTP ユーザ ID。
[FTP パスワード (FTP Password)] フィールド	FTP ユーザパスワード。
[FTP エクスポート頻度 (FTP Export Frequency)] ドロップダウンリスト	変更記録を FTP サーバにエクスポートする頻度を選択します。
[FTP ファイル名 (FTP File Name)] フィールド	エクスポートされる変更記録のファイル名。ファイルがターゲット FTP サーバにエクスポートされるたびに、次の変数を使用して新しいファイル名を作成できます。 MONTH、WEEK、DAY、YEAR、HOUR、MIN、SEC、MLLIS 例：XYZ-\$DAY-\$HOUR-\$MIN-\$SEC
[FTP のテスト (Test FTP)] チェックボックス	FTP の設定をテストするには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

計測データのエクスポート

計測データのエクスポートを設定することにより、VM リソースの使用率や、リソース アカウンティングの詳細などのトレンドデータを、サーバへエクスポートできます。

計測データのエクスポートの設定

-
- ステップ1** メニューバーで、[管理 (Administration)] > [統合 (Integration)] の順に選択します。
- ステップ2** [計測データのエクスポートの設定 (Metering Data Export Setup)] タブを選択し、Configuration Management Database (CMDB) の設定に使用されるフィールドに値を入力します。
詳細については、[CMBD 統合の設定](#)、(1 ページ) を参照してください。
- ステップ3** [保存 (Save)] をクリックします。
-

変更レコード

変更レコードの表示

-
- ステップ1** メニューバーで、[管理 (Administration)] > [システム (System)] の順に選択します。
- ステップ2** [レコードの変更 (Change Records)] タブを選択します。
(注) 最大 1,000 件のレコードを表示できます。
-

システム ログ

システム ログ (syslog) 情報を設定されたサーバに転送できます。各システム メッセージは重大度レベルに関連付けられます。ターゲットサーバに転送するシステムログの重大度レベルを決定できます。

システム ログの設定

手順の概要

1. メニュー バーで、[管理 (Administration)] > [統合 (Integration)] の順に選択します。
2. [syslog] タブを選択します。
3. [Syslog転送の有効化 (Enable Syslog Forward)] チェック ボックスをオンにし、次のサーバ フィールドに値を入力します。
4. [保存 (Save)] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 メニュー バーで、[管理 (Administration)] > [統合 (Integration)] の順に選択します。

ステップ 2 [syslog] タブを選択します。

ステップ 3 [Syslog転送の有効化 (Enable Syslog Forward)] チェック ボックスをオンにし、次のサーバ フィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[Syslog 転送の有効化 (Enable Syslog Forward)] チェック ボックス	syslog を有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。
[重大度の最小値 (Minimum Severity)] ドロップダウン リスト	どの重大度メッセージが syslog サーバに転送されないかのしきい値を下記から選択します。
プライマリ Syslog サーバ	
[サーバのアドレス (Server Address)] フィールド	プライマリ サーバのアドレス。
[プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト	プロトコル (UDP または TCP) を選択します。
[ポート (Port)] フィールド	ポート番号。
[Syslog メッセージフォーマット (Syslog Message Format)] ドロップダウン リスト	メッセージの形式 (XML またはプレーン テキスト) を選択します。
セカンダリ Syslog サーバ	
[サーバのアドレス (Server Address)] フィールド	セカンダリ サーバのアドレス。
[プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト	プロトコル (UDP または TCP) を選択します。
[ポート (Port)] フィールド	ポート番号。

フィールド	説明
[Syslog メッセージフォーマット (Syslog Message Format)] ドロップダウン リスト	メッセージの形式 (XML またはプレーン テキスト) を選択します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ストレージおよび OVF のアップロード

管理者、グループ管理者、またはエンドユーザがアップロードしたファイルの保管場所を設定できます。アップロードされたファイルをローカルに保存するか、または外部 NFS 共有マウントポイントを保存先として設定することができます。システムの管理者は、ネットワークファイルシステム (NFS) の場所を設定できます。

ファイルアップロード機能を使用して、管理者、グループ管理者、またはエンドユーザ (サービスエンドユーザ ポータル) は、オープン仮想化フォーマット (OVF) ファイルをローカルストレージまたは外部 NFS 共有マウントポイントにアップロードすることもできます。詳細については、『Cisco UCS Director OVF File Upload Guide』を参照してください。

複数言語のサポート

Cisco UCS Director は、次の言語の同時表示および入力をサポートしています。

- 英語 (米国)
- 日本語 (日本)
- スペイン語 (ラテンアメリカ)
- フランス語 (フランス)
- 韓国語 (韓国)
- 中国語 (中国)
- ロシア語 (ロシア)

すべての入力フィールドで、ユーザが選択した言語でのテキスト入力をサポートしています。

管理者は、特定のユーザをシステムに追加する際にそのユーザ用に言語設定を指定できます。詳細については、[ユーザの追加](#)を参照してください。また、システム内の各ユーザがユーザインターフェイスの言語を選択できます。詳細については、次を参照してください。[ユーザインターフェイスのロケール設定](#)、(6 ページ)

Cisco UCS Director 用言語の選択

Cisco UCS Director 用のユーザ インターフェイスの言語は変更できます。

-
- ステップ 1** メニューバーで、[管理 (Administration)] > [ユーザ インターフェイス設定 (User Interface Settings)] の順に選択します。
- ステップ 2** [言語 (Language)] タブを選択します。
- ステップ 3** [言語 (Language)] ドロップダウン リストから言語を選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- 重要** 言語の変更を有効にするためには、システムを再起動する必要があります。
-

ユーザ インターフェイスのロケール設定

システムのユーザとして、ユーザ インターフェイスに指定の言語を選択できます。この言語設定は、自身のログインセッションだけに設定され、他のユーザ用の言語選択には影響しません。

-
- ステップ 1** メニューバーで、画面の右上隅に表示されている自身のユーザ名をクリックします。
- ステップ 2** [ユーザ情報 (User Information)] ダイアログ ボックスで、[プロフィール (Profile)] タブを選択します。
- ステップ 3** [言語 (Language)] ドロップダウン リストから言語を選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- ユーザ インターフェイスの言語が即時変更されます。
- (注) [言語 (Language)] ドロップダウン リストと [保存 (Save)] オプションが表示されない場合、ブラウザのキャッシュをクリアして、Cisco UCS Director 再起動する必要があります。
-